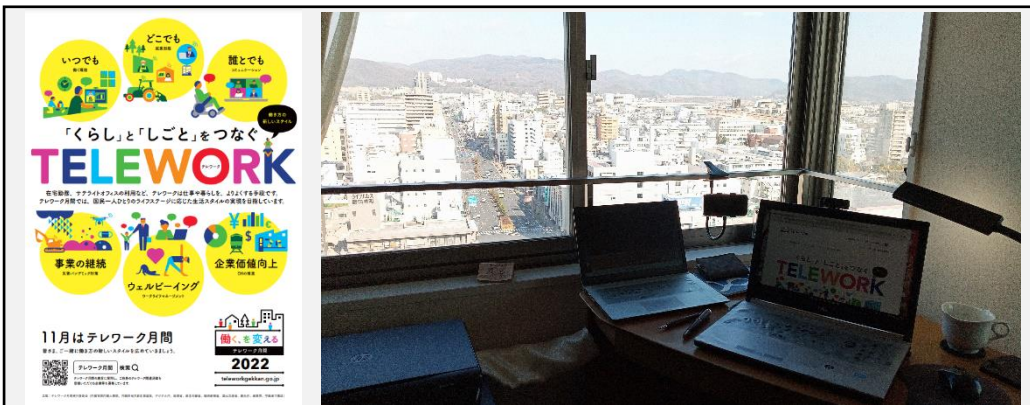


テレワーク実施風景（テレワーク月間期間中）



本社所在地	岡山市北区
アソシエイト数	10名
実施人数	3人
実施エリア	Society5.0事業部（オフィス 兼 自宅）
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 在宅勤務 <input checked="" type="checkbox"/> サテライトオフィス勤務 <input checked="" type="checkbox"/> モバイルワーク勤務
実施概要	DX技術を駆使して未だ観ぬSociety5.0の社会課題の解決に備える当法人は、ムーンショット目標およびweb3領域のマスアダプションの加速をリードし、アライアンス・パートナーのサテライトオフィスを担い、テレワークの普及促進に注力するなかで、法人5期目を迎えることができました。

実施結果

- オフィス関連経費の変化（消費電力や旅費・交通費の削減等）
⇒ リアル会議や対面商談・実地研修会等は、サテライトオフィス勤務またはモバイルワーク勤務を最大限活用し、その他は在宅勤務（フルリモート）の徹底により、消費電力や旅費・交通費を削減できました。
- 残業時間の変化（フレックス制等の導入を含む）
⇒ フレックス制およびフルリモートワークの導入により残業時間は繁忙期を除き、概ね 5時間～15時間/月の範囲のなかで推移しています。
- 生産性・業務内容の質等の変化
⇒ 通勤に費やされてきた時間（一般的に1～2時間〔往復〕）の生産性の押し上げ効果はもとより、クリエイティブ職における業務内容の質の向上は、当初の期待を大きく上回って推移していると言えます。
- 社員・職員等の満足度等の変化
⇒ フルリモートワークは当法人が定款に掲げた Society5.0の働き方の標準であり、スタートアップ時点の計画（5年以内）達成によるモチベーションアップも手伝い、社員・会員の満足度は、上昇を続けています。
- その他の評価指標（人事・採用面での変化など）
⇒ 今後、「デジタル田園都市における地域幸福度指標（Well-Being指標： <https://www.digital.go.jp/news/1a12ed33-272f-419c-a679-a339c4c999a5/>）」を、当法人の「DX経営ビジョン〔 https://www.city-okayama.net/digital_transformation 〕」のなかで活かせるかを検討し、可能ならば実装し、テレワークと地域幸福度指標（Well-Being指標）の相関性を検証できればと考えています。